

東部復興道路（かさ上げ道路）開口部の津波対策について

1. 概要

東部復興道路整備事業（かさ上げ道路）は、平成 25 年度から工事着手し、平成 30 年度の完成を目標に事業を進めているところである。

現在のかさ上げ道路の計画では、平時の内水排除機能等を考慮し、39 箇所の開口部を設置する予定としているため、この開口部について津波対策の手法を以下のとおり、決定するものである。

なお、今後、この方針を基本とし、地元と調整を行うものとする。

2. 開口部の対策方針

○開口部は暗渠化（ボックスカルバート）し、ゲートを設置する

- ・津波防御の観点から、できるだけ遮水が可能な構造とする。
- ・津波からの影響を軽減するため、開口部の設置は最小限の箇所とし、さらに暗渠化する。
- ・開口部の大きい箇所については、対策としてボックスカルバートにゲートを設置する。



○ゲート（対策工）は、無動力のフラップゲート（バランスウェイト付）を採用

- ・対策工法は、幅広い視点から候補を挙げ絞り込みを行う
- ・津波防御の効果、操作性、経済性などの視点から、評価を行い実現性の高い案を選定する。



○全体開口部39箇所のうち、開口部の大きい箇所（幅2m以上の16箇所）について、ゲートを設置

想定事業費 約 30 億円

3. 今後のスケジュール（予定）

- 設計業務委託 平成 28 年 1 月～
- 道路本体工事と併せて工事発注 平成 28 年 5 月